

○施策全体の目標 ……本施策では本邦初のデジタル医療データバンクを構築し、AI駆動型の次世代診療ワークフローの実現、医療DX人材の育成、産学連携に基づく創薬や医療機器開発へ応用するとともに、質の高い学術研究を行うことを目標とする。特に次世代医療基盤法下における匿名加工医療情報に該当する医用画像が未だ存在しない状況を鑑み、厚生労働省・政策科学総合研究事業とも連携しながら、匿名加工・仮名加工における技術的な方法論も確立させながら推進する。本施策の成果は事業化することを想定しており、施策終了後はSIP第3期課題「統合型ヘルスケアシステムの構築」への導出を予定している。

テーマ等（※個別に目標を設定している場合）	当年度目標	目標の達成状況（年度末報告）
①デジタル医療データバンクの構築	<p><u>R5年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術開発の進捗：医療AI研究開発を志向した医療データプラットフォームの構築と実装（TRL6へ）</li> <li>・イノベーション化の進捗：デジタル医療データバンクの創薬・医療機器開発への応用[1件以上のPOCの取得]（BRL6へ）</li> <li>・人材育成の進捗：レジデント、大学院生及び博士研究員など若手人材の参加を必須とし育成する（5名以上）[若手人材はテーマ①及び②双方に参加]（HRL4へ）</li> </ul>	(-)
②AI駆動型の次世代診療ワークフローの実現に向けた取り組み	<p><u>R5年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術開発の進捗：診断または治療をサポートするAIの開発（TRL6へ）</li> <li>・イノベーション化の進捗：開発した医療AIの社会実装を目指した取り組み[薬事承認を目指したPMDAとの面談・実証実験の推進など（1件以上）]（BRL6へ）</li> <li>・人材育成の進捗：レジデント、大学院生及び博士研究員など若手人材の参加を必須とし育成する（5名以上）[若手人材はテーマ①及び②双方に参加]（HRL4へ）</li> </ul>	(-)

